

エースのドームを飾る「ドルフィン」



神奈川県立歴史博物館 (旧横浜正金銀行本店本館)

安

政6年（1859年）、開港地のひとつとされた横浜。

それ以来、外国商人との取引が盛んに行なわれるようになったが、明治初期には紙幣と正貨の価値の違い等に悩まされたという。

そのため、正金（現金）による堅実な金融と取引の円滑化、さらに貿易の増進を促すために、福沢諭吉や大藏卿大隈重信らの支援により、明治13年（1880年）、横浜正金銀行は開業した。

この銀行の本店本館の建物が、「エースのドーム」で知られる神奈川県立歴史博物館の前身である。

この建物を設計したのは、東京日本橋の装飾意匠設計などで知られる妻木頼黄（つまきよりなか）。

建物は、外壁に石材を使用した煉瓦造りで、地上3階地下1階建て。

古代ギリシア風の重厚な石造彫刻が施された柱と、正面の巨大なドームが威厳ある外観を構成している。

大正12年（1923年）の関東大震災で、1階から3階までの内装とドームが焼失。震災後に復旧工事が行なわれ営業は再開されたが、そのドームは失われたままだった。

戦後も建物は銀行として営業されたが、昭和39年（1964年）、神奈川県が土地と建物を買収する。

その後、昭和42年に建物のシンボルであるドームを復元、新館部分を増築して、神奈川県立博物館として開館した。

ドームは設計図が残されていないかったため、竣工当時の写真を資料として可能な限り正確に復元した。下地は角の部分をシャープに再現するのに適した檜材とし、銅板を葺いたという。

平成7年（1995年）からは、神奈川県立歴史博物館にリニューアルされている。展示室等以外の部分が公開されるのは、年に数回の公開日のみなので注意が必要。

昭和44年に旧横浜正金銀行本店本館として国の重要文化財に、平成7年に国の史跡に指定される。



銀行時代の内装が展示室壁面として復元されている



銀行時代の地下金庫室の扉。現在は収納室として利用されている（通常非公開）



銀行時代の旧正面玄関天井を彩るステンドグラス



エースのドームの下地はなんと木製（ドームは通常非公開）



DATA

名 称 神奈川県立歴史博物館
所在地 神奈川県横浜市中区南仲通 5-60
完 成 明治 37 年 設計者 妻木頼黄

※ 2025 年 1 月から 2026 年 9 月まで、設備改修工事のため休館が予定されている